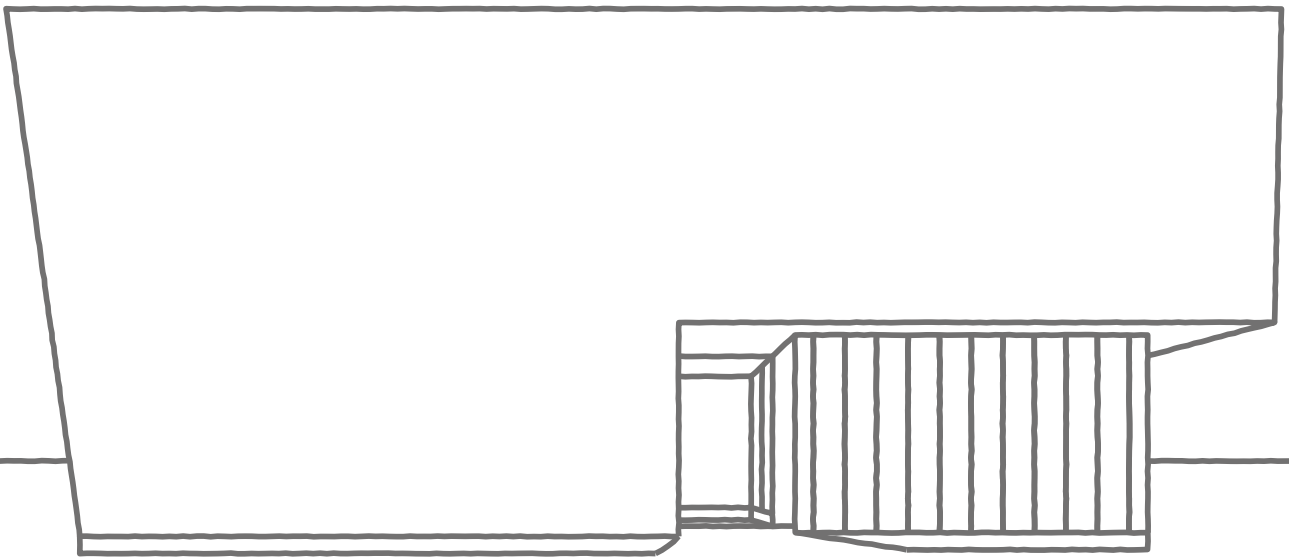


SIMPLE NOTE



偏見を覆す、美しくも快適な家

デザイン住宅と聞くと、多くの方が「デザインが良いだけで住みにくい」、そう考えるでしょう。しかしそれは誤解だと、私たちは考えます。なぜならデザインは、使いやすさや快適さを追求した結果だからです。自動車が直線の組み合わせから流線型へと変わってきたように、携帯電話がボタンを廃止してスマートフォンへと進化してきたように、あらゆるものはその機能性を追求していく過程で無駄のないシンプルな形へと回帰していきます。「デザインは機能から生まれる」、それは家にだって同じことが言えるはず。むしろ人生で一番高価な買い物である住宅だからこそ、無駄を省くことで予算を抑え、そのぶん自分や家族が心豊かに暮らすための余裕ができるのです。“SIMPLE NOTE”はその名の示すとおり、シンプルな住宅を提供するという目的を貫きます。

その「当たり前」は正しいのでしょうか

「できるだけ大きな家に住みたい」と考えるのは、家を建てる人にとって当たりの気持ちかもしれません。ですが、住宅を構成する要素のうち、およそ2～3割は“不要な要素”だと言われています。人が歩くだけの廊下。大きな面積をとりながら、結局は人目を気にしてカーテンを閉めっぱなしの南向きの窓。将来は使わなくなってしまう子ども部屋。そんな要素にも購入・維持のコストはかかります。建てた瞬間だけでなく、その後が続いていく家族の生活を思い浮かべてみれば、いつまでもその家で不自由なく暮らせることこそが大切だと気付くはず。「あって当たり前」と考えているものを見つめ直すことで、本当に必要な家のシンプルな姿が浮かび上がってくるのです。

SIMPLE NOTEの家は、外から見える窓は少ないのですが、中庭やトップライトを設けることで室内は驚くほど明るい空間になっています。外から見えなくすることでプライバシーを確保し、家族がのびのびと暮らす贅沢さを手に入れることができます。また、窓の少なさは建物の強度を上げるとともに、防犯面の強化や無駄な外構費用の削減など様々なメリットにもつながります。

あるお施主様は「朝起きて中庭のカーテンを全開にし、人目を気にせずコーヒーを飲む時間が一番癒される」と語ってくださいました。SIMPLE NOTEが目指すのは、他の誰のためでもない、ご自身とご家族が心からリラックスできる場所を目指した注文住宅です。

南側の大きな窓なんて、 いらない。

「南向きのリビングに設けた、大きな窓」。いかにも家の中全体が明るくなりそうな、理想の住まいを思い起こさせる言葉ですね。デメリットさえ考慮しなければ。

あなたがこれから家を建てるとして、南向きの大きな窓が生活シーンの中では実際にどんな役割を果たすのか、少し考えてみましょう。

まずは、期待どおりにリビング「だけ」は明るくなるでしょう。南側の窓から取り入れた光は北側にレイアウトされた他の部屋までは届きませんから、それぞれの部屋にも大きな窓を作るなど、光を採り入れる工夫をしなければいけませんね。

もしあなたが家を建てる土地が住宅地の中であれば、リビングが面している南側は車や人が行き交う道路、もしくは他の住宅が接していることでしょう。そうすると、他人から丸見えのリビングで暮らすわけにはいきませんから、人目を遮るカーテンや庭木が必要になります。

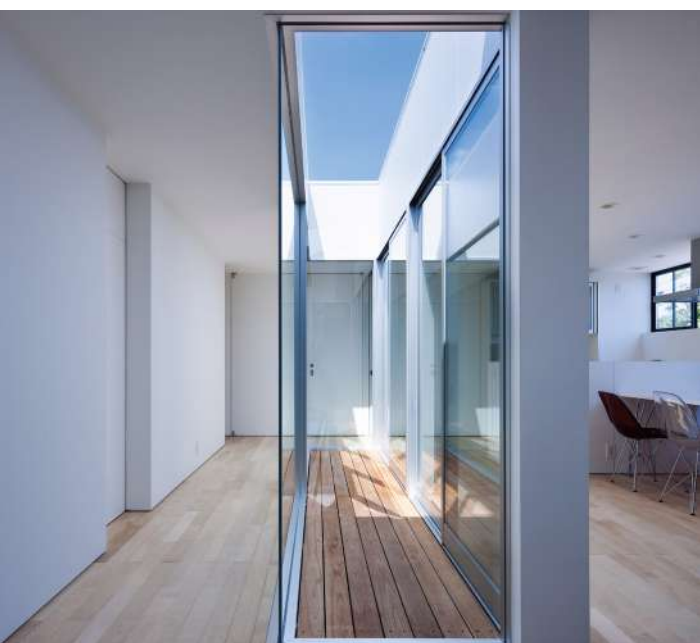
カーテンを閉めてしまえば光は入ってきませんし、庭木をはじめとする外構工事には多額の費用が必要になります。せっかく光を採り入れるために作った南向きの窓は、カーテンを閉め切って生活することでその目的を果たせないどころか、余計な費用で家計を圧迫する原因になりかねないのです。

“SIMPLE NOTE”の建てる家は、外側に向けた窓がほとんどありません。もちろん、これまでの住宅でセオリーとされていた「南向きの大きな窓」も、です。

なぜなら、外壁に並んだ窓にどれだけデメリットがあるかを知っているからであり、それらに頼らなくても室内に光を採り入れる方法を知っているからです。

「カッコイイけど住みにくい」。デザイナーズ住宅は、時としてそんな評価を受けることがあります。住みやすさを考慮せず、「美しくデザインすること」だけを目的に建てられたデザイナーズ住宅なら確かにそのとおりかもしれません。

しかし私たちが建てる家がシンプルで美しいことには、その一つひとつの要素に必ず理由があります。「無駄を省く」「使いやすく」「維持しやすく」…これまでの住宅で当たり前とされていたことを見つめ直すことで、結果として生まれる美しさなのです。



高価な土地にしか、 良い家は建たないのか

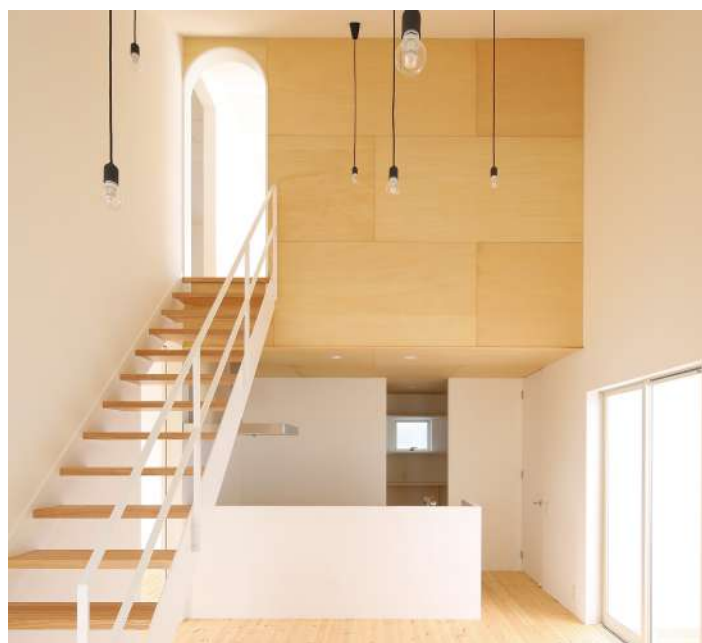
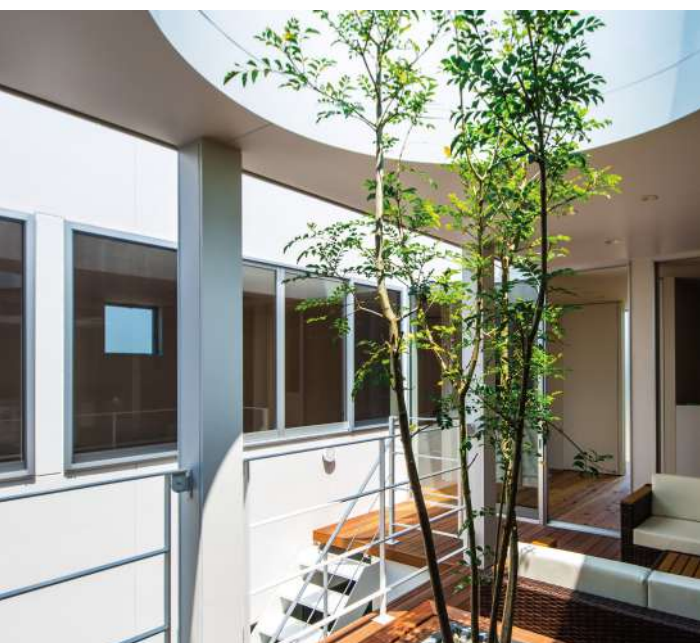
家づくりは、建物にだけ気を使えばいいというものではありません。土地選びを疎かにしてしまえば、そこで始まる暮らしの利便性はもちろんのこと、生活する上での心のゆとりや経済性、安全性にも影響が出てくるからです。

現在すでに持っている一戸建てを建て替える、または実家の敷地内に新しく家を立てる、そんな状況でない限りは、あなたの家づくりは土地を探すところから始まるでしょう。土地を探す時、多くの人は「南側が道路に面したきれいな四角形の土地」をいい土地の基準と考えているでしょうし、実際にそういった土地はとても人気があり、売りに出たそばから買い手が見つかるものです。

ですがそういった土地は人気があるゆえに価格が高めに設定されており、値下げ交渉に応じてもらえることもほとんどありませんし、購入の際に即決を迫られることも珍しくありません。さらに言えば、土地の高さに加えて周囲からの視線を遮るために塀や植栽といった高価な外構工事が必要となり、結果としてトータル予算を増やすか、建物に使う金額を減らさざるを得なくなります。

ならばいっそ、「南側の開けた土地を買うべき」という先入観を見直してみてもどうでしょうか。旗竿地や変形地といった、他の人が敬遠しがちな安い土地を買えば、浮いた予算は建物に使うこともできますし、トータルの予算を圧縮することもできます。それに家の中に光を導き入れる手段は、南側の大きな窓だけではありません。中庭やトップライトを設けることで家の中は十分な光を採り入れることができますし、外に面した窓を減らすことはプライバシーの確保や防犯性の向上にもつながります。また外壁が堀を兼ねるので土地の面積を有効活用でき、限られた面積の土地でもゆったりと暮らせる建物を設計することができます。

もちろん、そのような工夫を凝らした家を、どの工務店でも建てることができるわけではありません。しかし住みやすく美しい家を無理のない予算で建てたいなら、一度“SIMPLE NOTE”にご相談ください。土地の選び方だけではない、住まいに関わる全ての先入観を、私たちと一緒に一つずつ見直していきましょう。



子どもの将来、 子ども部屋の将来

子どもにも自分の部屋を与えたい、そう思って家づくりを決断する人は多いことでしょう。広々とした快適な部屋で子どもたちがどう遊び、学びどんな大人に成長していくのか。そうやって子供たちを見守り、幸せな将来を願うのは、親として当然の気持ちです。

そうすると、2階建ての家の1階にリビングダイニングと来客用の和室、2階に夫婦の寝室と子供の人数に合わせた部屋を配置するのが一般的なレイアウトになります、しかし子どもたちが自立して巣立って行ったあと、夫婦だけになった家で子ども部屋はどんな役割を担えばいいのでしょうか。

夫婦それぞれが趣味や仕事の部屋として使う予定があるのならまだしも、使わなくなった荷物を押し込んでおくだけの場所や、空っぽのまま部屋を放置しておくだけになるのであれば、それはとてももったいない話です。将来的に使われなくなる空間にも建築のコストはかかりますし、それを維持するのもコストと手間が容赦なくかかり続けていくからです。

「人数に応じた子ども部屋」「来客に備えて1部屋余分に」という固定観念に囚われてさえいなければ、もっとLDKを広々と設計することができたかもしれませんし、家全体の床面積を削ることで階段を上り下りせずゆったりと暮らせる平屋にできたかもしれません。

子どもが自室で一人で寝る期間は思ったほど長くありませんし、年間を通して来客が泊まる機会もそれほど多くはないのではありませんか。それならば子どもが小さいうちは子ども部屋を来客用として使えば、来客専用の部屋を作らずに済みます。

そんなふうに「当たり前」と思っていることをひとつずつ見直して、もっと広く、シンプルな家を建てることができるのは、“SIMPLE NOTE”で家づくりを進めていく人だけが得られる特権なのです。



泥棒が 入りたくない家

「昔の家は玄関の鍵なんてかけなかった」、そんな話をよく聞きますね。近所にどんな人が住んでいるかをしっかりと把握していた時代はそれでよかったかもしれませんが、地域のコミュニティが希薄になってきた今では、なかなかそうはいきません。もし玄関に鍵をかけ忘れて泥棒に入られでもしたら、鍵をかけなかった方が悪いと言われかねませんね。つまり、昔に比べて防犯策を自分自身で万全にしておくことが求められる時代になっているのです。

では、玄関や窓を施錠するのは当たり前として、家のセキュリティを高めるため他にどんなことができるでしょうか。防犯カメラや警備会社との契約などいくつかのアイデアは思いつくでしょうが、意外と思いつかないのは「家の形を見直す」ことなんです。

ありがちな一軒家を思い浮かべてみてください。その家は1階の日当たりのいい場所に、大きな窓がありますね。そこは間違い無くりビングです。裏に回って目線の高さに窓があれば、そこはキッチンです。さらに小さな窓は、おそらくトイレやお風呂に通じているでしょう。2階はベランダに面していくつか窓があり、その内どれかが主寝室、あとは子ども部屋ですね。敷地がブロック塀で囲まれているとはいえ、外から窓の場所を見るだけである程度の間取りがわかってしまうような家は、はたして防犯性の高い家と呼べるでしょうか。

いっそ外観から大きな窓を無くしてしまえば、その間取りを外から想像することは難しくなり、防犯性能を高めることができるのです。もちろん、中庭やトップライトを使って光と風の通り道は確保したままで。

ありがちな一軒家の例で「敷地がブロック塀で囲まれている」と述べましたが、窓を無くした外壁は外からの目線を遮る必要がありませんから、外壁がそのまま塀の役割も果たします。つまり、これまでの家でブロック塀と外壁の隙間にあった無駄な空間を生み出すことなく、敷地いっぱいに家を建てるのが可能となります。土地の面積が狭くても広々とした家を建てたい方にも、外壁に窓を作らないシンプルなスタイルの家は、お勧めの方法と言えるでしょう。



使わない 夢のウッドデッキ

「新しい家には、ぜひウッドデッキが欲しい」。そう考える方はとても多いと思います。お子さんの遊び場や休日のバーベキュー、気持ちいい日差しを浴びながらのうたた寝…そこで過ごす時間を考えるだけでも、ワクワクしてきますね。

そんな夢の象徴ともいえるウッドデッキですが、実際に作った家では思ったような使い方ができていないパターンがほとんどです。というのも、一般的な設計のウッドデッキはリビングに接した日当たりのいい場所に作られます。南側に道路が面している土地では、日当たりのいい場所はイコール通りからの目線にさらされる場所でもあります、そんな場所では、くつろいだプライベートな姿なんてとても見せられませんよね。だからといって日の当たらない北側に作ってしまえば、日が当たらず居心地の悪い場所になってしまいますし、どちらにしてもお隣の視線から逃れることはできません。

そんなウッドデッキが辿るのは、使われずに放置され、やがて朽ちていくという悲しい末路です。高いコストをかけてせっかく作った、夢の象徴だったはずのウッドデッキがそんな扱いをされるなんて、あまりにももったいないですよね。

でも、ここでお伝えしたいのは「ウッドデッキをすっぱり諦めてください」という話ではありません。むしろ「めいっぱい使えるウッドデッキを作ってください」という話です。周囲からの目が気になるのであれば、その目線が届かない場所に作ればいいのです。つまり、家の内側に。

それに最も適しているのは中庭です。そこに配置したウッドデッキはご近所からの目線が届くことのない、まさにプライベートな空間。ラフな格好でお昼寝をしても、誰にも見られることはありません。また中庭なら生活のいろんな場面で目に入りますから、「ちょっと出てみようかな」という気持ちになりやすく、おのずと使用する頻度も高くなります。さらに中庭があることで家全体に光を採り込むことができますし、洗濯物を干すスペースとしても利用すれば、家事導線を短縮しつつ、洗濯物で美しい家の外観を損なうこともありません。夢のウッドデッキを理想通りにきちんと使えるようになるだけでなく、ウッドデッキがあることでメリットまで生まれるというわけです。

ウッドデッキに限らず、家にあるものすべてに「作ってよかった」と思える家づくりをしたいなら、ぜひ“SIMPLE NOTE”にご相談ください。



上と下と 北と南と

主婦目線で家考えた時、気になるのは家事動線ではないでしょうか。実際、同じ家事であっても動線が違えばその労力はグンと減らすことができますし、それが毎日のこととなれば積み重なる負担の違いはかなり大きくなります。

そこまでわかっていながら、いまだに多くの人が最初から家の間取りを「2階建て」、つまり階段の上り下りに家事を阻まれること前提で考えてしまっているのは、とても不思議なことです。

というのも、家事のうちで肉体的に大きな負担を強いられるのが洗濯です。脱衣所に置いた洗濯機から濡れた重い洗濯物を取り出して、階段を上がって物干し場となる2階のベランダまで運ぶ…。考えただけでもウンザリしてしまう重労働ですね。しかし家を平屋にするだけでこの苦労は簡単に無くすことができます。

水回りと物干し場のレイアウト自体も、もっと考えなければいけません。物干し場は日当たりのいい南側や西側に配置されますが、水回りはリビングなどの日当たりを優先させた結果として日の当たらない北側に追いやられることが一般的です。こう書いただけでもお互いが家の最も遠い場所、正反対に位置していることが想像できるでしょう。こんなレイアウトにせざるを得ないのは、南側の窓からしか光を採り込めない従来の間取りを採用した家の宿命といえます。

そんな無駄に長く険しい移動を「最良の家事動線」と呼ぶことはできません。若いうちは何とか我慢できるかもしれませんが、何十年か後に足腰が弱ってきたあなたが、その負担に耐えられるでしょうか。それならば平屋の家を建てて、中庭などを利用することで明るい物干し場と脱衣所の距離を近く・平坦にまとめるほうが、よっぽど現実的ではないでしょうか。

“SIMPLE NOTE”の建てる家は、中も外もその名の通りシンプルな見た目が大きな特徴です。しかしそれはデザインを優先した結果ではなく、使い勝手やコスト、そして将来の暮らしまでも見通した結果であることを、どうか忘れないでください。



simple is not simple

あなたが住みたいのは、
「当たり前」をなぞった家か、
「幸せな毎日」を願った家か。



S I M P L E N O T E